

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が将来にわたって主体的に学び続ける意欲や探究心を高め、自らを伸ばさせることができるよう、教育課程編成や授業改善に取り組む。 学校行事や生徒会活動等を充実させ、自立と社会参加に必要な力の育成を図る。 	<p>○多様な学習ニーズに応える環境が整った。新システムを活用し、在籍生徒全員に学習につながる自立を促す積極的な支援を学務グループなどが中心となり、学校全体で取り組む。</p>	<p>(1)新e-ラーニングシステムにより、学習進捗の確認やコンテンツの活用が容易にでき、学習意欲の高い生徒はもちろん、学習が進まない生徒にも担任と連絡を密にして、単位修得に向けた支援体制を整える。</p> <p>(2)年度途中で復活する生徒の履修条件の見直しを行い、卒業への道筋を整える。</p>	<p>(1)担任、生徒双方で学習進捗の確認をし、連絡を取り合うことで単位修得に至った生徒が増えたか。</p> <p>(2)10月復活や編入生の履修可能単位数や履修科目の制限を変更することで卒業要件に適した履修登録をする制度ができたか。</p>					
2 生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 多様化する生徒の実態を踏まえ、学びたい生徒が安心して学ぶことができる環境を作る。 生徒一人ひとりの個に応じた支援体制の充実を図る。 	<p>○学校生活のルールを、生徒の状況に応じた適切な方法で周知することで、安心安全な学習環境を保つ。</p> <p>○多様化する生徒の実態把握により、合理的配慮の理念に基づく効果的な支援を行う。</p>	<p>(1)いじめ等防止基本方針に基づいた様々な取組を適宜行う。</p> <p>(2)情報の適切な発信と並行して、掲示物の整理等で情報の精査を行い、生徒が情報を受け取りやすい環境の整備を行うことで、生徒指導の未然防止と学校ルールの徹底に努める。</p> <p>(3)SC、SSW、精神科校医による個別相談会、保護者教育相談会、個人面談月間等を活用することで相談支援体制の充実を図るべくPRの機会を増やす。</p> <p>(4)TRY教室、架け橋教室、悠ルーム等の利用を促すPRを工夫することにより、生徒の学習活動が順調に行えるよう支援を行う。</p> <p>(5)生徒の実態を把握し、職員が適切な支援先につなげるため群会議及びデータベースを活用する。</p>	<p>(1)いじめ等防止基本方針に基づいた様々な取組を適切な時期に行ったか。</p> <p>(2)特別指導件数を減らすことができたか。</p> <p>(3)相談支援体制の充実のためのPRの機会が増やせたか。</p> <p>(4)TRY教室、架け橋教室、悠ルーム等の利用回数、延べ800回以上の利用。</p> <p>(5)職員が多様化する生徒の実態を把握し、情報共有するために、群会議及びデータベースを有効活用できたか。</p>					
3 進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が社会的・職業的自立に向けたキャリア発達を意識できる就労支援・進学支援の充実を図る。 	<p>○職業観・勤労観の育成を図るキャリア教育を充実させるとともに、生徒のニーズに対応した進路指導を実現する。</p>	<p>(1)体験的な学習を含む研修旅行や、弁護士を招いての司法教育などを充実させる。</p> <p>(2)担任やキャリアアドバイザーと連携を取りながら、保護者も含めたキャリアガイダンスルームの活用を促し、生徒個々のニーズに応じた進路相談の充実を図る。</p> <p>(3)修悠館サテライトの広報に力を入れ、生徒の継続的利用を促す。</p>	<p>(1)充実した研修旅行、弁護士による出前授業が実施できたか。</p> <p>(2)卒業予定者および卒業予定ではない生徒のキャリアガイダンスルーム利用率がそれぞれ増加したか。</p> <p>・一社あるいは一校でも受験した生</p>					

		<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブ教育を推進し、多様な生徒の自らを伸長させる可能性を引き出す支援体制の構築を図るとともに、生徒一人ひとりがお互いを認め合う人権意識の涵養に努める。 	○生徒の自立と社会参加を目標に、外部機関との連携を充実させる。	(4)特別な教育的ニーズを有する生徒個々の実態に応じた支援のため、個別の支援計画の活用を促進し、関係機関や保護者との連携のもと、就労支援、社会参加への支援をいっそう充実させる。	<p>徒が全員内定あるいは合格することができたか。</p> <p>(3)修悠館サテライトの、のべ相談件数が昨年度並みの250件以上。</p> <p>(4)個別の支援計画を作成した生徒の就労または社会参加の達成 95%以上。</p>					
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や外部機関との連携・協働を推進し、地域を信頼するとともに、地域に信頼される学校づくりを進める。 	○地域貢献活動や地域の行事を通じて活発な交流を図り相互理解を深め、生徒の地域参加による自信と達成感を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連絡を密にして情報を収集し、より多くの生徒が部活動や委員会、ボランティアなどの多様な形で、多くの機会に参加できるように日程的に余裕を持った、効果的な広報を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の参加を促す広報を多くの機会に効果的に行うことができたか。 ・生徒の自発的な活動を促し、地域貢献活動や地域のイベントに参加する生徒の割合を増やせたか。 					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が将来にわたって自らを伸長させる可能性を最大限に引き出すための、教員の能力向上や意識改革を図る。 ・すべての職員が教育環境の変化に迅速に対応し、前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 	<p>○e-ラーニングシステムの更新を機会に、より使いやすいICT環境を日常的に利活用して教育の情報化を推進する。</p> <p>○情報環境についての整備と管理を進めると同時に、社会の防災意識の上昇に伴う危機管理の意識を教員生徒共に向上するよう取り組む。</p>	<p>(1)更新されたe-ラーニングシステムのもとで、より多くの生徒が活用できるようサポートを行う。</p> <p>(2)様々な災害に対する意識向上を目指し、複数種類の防災訓練を実施する。</p>	<p>(1)・スクーリングにおいて、ICT機器が日常的に活用できていたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいe-ラーニングシステムが支障なく稼働しているか。 ・e-ラーニングシステムを利用した講座の単位修得率が向上したか。 <p>(2)防災訓練に参加した生徒の比率が増加したか。</p>					